

第三支会通信

(平成 23 年 12 月 1 日号)

1. 第三支会の概況

第三支会は、川越市の本庁管内の中の西南に位置し、自治会数は 11、約 6500 世帯で構成されている。

この地域は、旧「田面沢村区域」とほぼ同一で、各町の係わりには歴史的な繋がりが古く、地域内には、穀倉地帯とも言える農政地域の田園と住宅地とが共存している。

地域内西部の田園・農政地域は昔からの環境・風景を維持し、駅に近い東部の川越台地には新しい住宅・マンション等が増加して来ている。

一方、南西部には、平成 26 年度完成予定の北環状線道路の建設も進み、併せて、大型物販店の出店も 24 年暮れに予定されている。

第三支会では、この様な状況の中で、緑の自然環境を保護・維持しながら、安心・安全な中にも文化性を高めた住みよい住環境を目指していききたいと思っています。

☆ 第三支会西部・小ヶ谷に広がる田園地帯



☆ 第三支会東部・田町に立つ高層マンション



☆北環状線道路の建設状況



☆大型物販店の出店計画のある小室の周辺



建築計画のある大型店舗(経営母体=マミーマート)は、既に川越市から建築許可が出されていて、第一次建築計画では、売り場面積約 1000 坪の食料品大規模販売店を 24 年暮れ迄にはオープンする予定となっている。

その後は、順次、食料品以外の大型店舗、娯楽施設等が建設される予定となっている。

この建設予定地は、平成 26 年に開通が予定されている北環状線道路の入り口で、こられ両者が完成すると、車、人の流れが新しく変わり、第三支会の環境・文化も変わりそうだ。

2. 第三支会内の自治会・自治会長・役職等

自治会名	自治会長名	役職
野田町一丁目	秋庭 敏男	支会長
野田町二丁目	二宮 忠之	副会長
田 町	小高 勇	
東 田 町	鹿倉 眞澄	会計
上 野 田 町	長峯 茂夫	
今成 一丁目	益子 博允	監事
今成二・三丁目	奈良 正	
今成 四丁目	藤倉 次郎	
小 室 町	関 一夫	
小 ケ 谷 町	内田 富久	監事
リバーサイド川越	篠崎 庄司	

3.ホットニュース

☆泉小の子供たちに野田町の歴史と山車祭りを教える

平成23年2月、子供サポート事業の一環として、泉小3年生に野田神社の歴史と、野田5町の山車について、秋庭第三支会長が説明をした。子供たちは、目を丸くして、聴き、懸命にメモを取る姿が印象的であった。



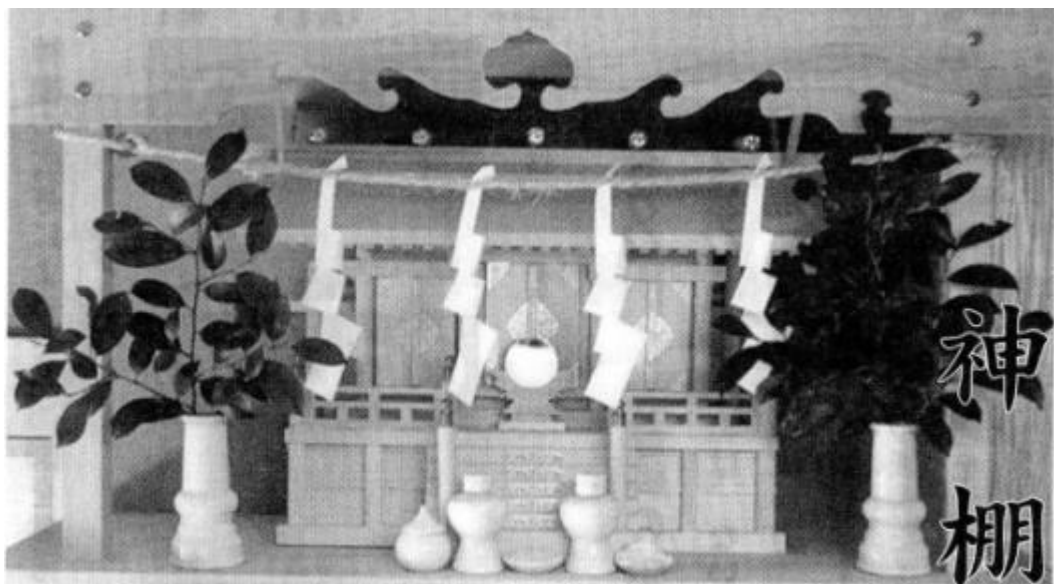
(1).野田神社について

① いつ頃出来たのか

- (ア)起源：1333年頃に小手指稲荷があったとする記述：「入間神社誌」＝新田義貞の鎌倉攻め
の時（鎌倉幕府滅亡）、陣地の旗塚に稲荷社を祀ったとする説
- (イ)1532年頃、（川越蓮馨寺開基のころ）田島隼人が移住して来て、氏神様として崇敬した稲
荷神社とする説
- (ウ)1648＝江戸時代・松平伊豆守信綱の検地の時、除地とした記述
- (エ)1782＝江戸10代将軍の時代：「正一位」授与の証有り
- (オ)明治5年＝野田村の村社に指定
- (カ)明治11年本殿を改築した
- (キ)明治41年この稲荷神社と、近辺にあった日枝神社及び野田新田の八幡神社を合祀し、「埜
田神社」とした。
- (ク)社務所は、昭和11年建設

② 建物について

- (ア)鳥居ってなんですか・＝神様のいる区域と人間が住む俗界を区分する門
神様のいる所への入り口。
稲荷様の鳥居はなぜ赤い：命の躍動を表し「災い」を防ぐとして、神殿等に多く使われ
ている。
・昭和天皇即位を記念して、昭和3年11月10日に立てられた。
- (イ)家みたいな建物・＝拝殿＝神様の棲んでいる住まい＝社
- (ウ)建物の中には、何がある＝



・野田新田にあった八幡様も移築してある＝川越城内の三芳野天神様にあった本地堂（薬師様）を廃城の時、榎本神官が譲り受けたもの

(エ)祐天上人の数珠について

江戸時代（三代将軍）、野田村一帯に疫病が流行し、多くの人々が亡くなる事があった。たまたま、田島家に泊まっていた、諸国を修行中の祐天上人が数珠を持ってフセギ（寒ぎ）

として、念仏を唱えて村の中を回った。その後は、明治30年ごろまで、実際に数珠をもって、7月15日に各戸を回ってお祓いをしていた数珠。



祐天上人の数珠

③ 野田神社にいる神様はどんな神様



- (ア) 譽田別命 (ほんだわけのみこと) = 八幡様 = 応神天皇 = 皇室の守護神
- (イ) 保食命 (うけもちのみこと) = お稲荷様 = 食べ物の神様
- (ウ) 大山咋命 (おおやまくいのみこと) = 日枝神社 = 江戸城の守護神
- (エ) 八坂神社 = 素戔鳴尊 (スサノオノミコト) = 三兄弟の中で最も元気な神様 = 天王様

④ 野田神社を大切にしたい、どんな事を伝えたらよいか

- (ア) 汚さない、何時もきれいにしておく (= 掃除をする)
- (イ) 壊さない: 昔からの文化財を大切に。拝殿の両脇にある燈籠等を大切にする。

(ウ)天王様・川越まつり等の祭りに参加する。

(エ)神様の事をよく勉強する。

(オ)野田神社には、たくさんの神様が祀っているので、大切にして、神様を敬う心を養う。



文政 7 年 1824 年川越城主・松平齋典（なりつね）城主の武運長久を祈願した燈籠

(2)野田神社にある山車

①何時頃出来たか

昭和 62 年頃、関東建設の新井みよ様から、「野田 5 町に相応しい山車を造ったら」との話を頂き、昭和 63 年の夏、具体的な寄付金額迄、話を頂いた。

その後、野田 5 町の自治会正副会長会等で協議し、具体的な建設の資金見積もり等を取り寄せた。

平成元年になって、1 月 11 日に関東建設から寄付金の一部 5000 万円を受領した。

平成 2 年 10 月の川越祭りに参加する、計画で建設作業が進んだ。

平成 2 年 10 月 13 日、柿落とし、14 日に川越祭りに参加した。

その後、平成 5 年に漆、金箔を施し完成。

②どこで、誰が造ったか。

- ・山車本体＝高山栄治 棟梁（川越市旭町）
- ・彫刻＝彫刻師 豊田豊（寄居町）
- ・塗装＝岸野美術工業（日光市）
- ・鍔金具＝鈴木鍔金具工業（日光市）
- ・上段四方幕（丸龍）、下段見送り幕（合戦絵巻）＝川島織物（京都）

③どんな思い・願いで造ったか

- ・野田 5 町内の住人の幸福、安寧
- ・野田 5 町の新旧住民の融和・連帯＝一緒に祭りに参加する
- ・川越祭りに参加したい
- ・野田 5 町には戦後何度か、山車建設の計画があった。

(費用を捻出する事が出来なかった)

④八幡太郎ってどんな人

- ・源義家平安後期の武将、・鎌倉時代を開いた源頼朝、室町時代の足利尊氏の祖先、
- ・7歳の時に、京都石清水八幡宮で元服し、自ら、「八幡太郎」と名乗った。
- ・1051年に始まった「前九年の役」に出陣し、1057年18歳で、武勲をあげた。
- ・24歳で「従五位下」を賜る＝袍の色：深緋色
- ・59歳で、「正四位下」を賜る＝袍の色：黒色
- ・今の山車の八幡太郎は「2世」＝1世は鎧兜で、戦いに行く姿であった。
- ・平成21年に造り直した。

⑤なぜ八幡太郎か

- ・野田神社には、八幡様が合祀されているから

⑥山車の重さや大きさは

- ・高さ 4.78メートル（東上線の踏切の高さ＝4.8m）（人形上げて÷8m）
- ・幅 2.4メートル
- ・長さ 3.4メートル
- ・重さ ÷ 5トン

⑥川越まつりについて

- ・川越氷川神社の例大祭＝10月14.15日 ÷ 現在では、10月第三土・日曜日
- ・氷川神社＝素戔鳴尊等5つの神様を祀ってある。
- ・五穀豊穰を祝うまつり。
- ・江戸時代に川越の総鎮守となり、1648年に城主、松平信綱が祭りを奨励し、氷川神社に神輿、獅子頭、太鼓等を寄進した。
- ・その3年後1651年に神幸祭が行われ、これが「川越祭り」の起源とされている。
- ・当初は、上5カ町（江戸、本、南、喜多、高沢）、下5カ町（上松江、多賀、鍛冶、嶋、志多）の10町の山車で始まった。
- ・現在、川越の山車は29台、
- ・神々の集まる祭り
- ・「ひっかわせ」1814年・文化ごろに「交差のさいには囃子を叩き合う」が決まり、天保の頃に盛んになってきた。
- ・江戸では、山車の形が安政4～.5年頃一本柱から、三層式になったが、川越でもほぼ同時に、これと同じ形となった。
- ・江戸の天下まつりを真似してきたが、幕末で天下祭りが終焉を迎える。

以上秋庭記す

☆一人暮らしの高齢者の集いと小学校児童との交流会を開催

平成23年5月28日午前11時より、野田町一丁目自治会と町内の民生児童委員の共催で、野田町一丁目の老人憩いの家で、一人暮らしの高齢者の集いを開催した。

まず、野田町一丁目自治会長 秋庭敏男氏の挨拶、次いで、来賓としてご出席頂いた、川越市社会福祉協議会の総務課課長矢沢美佐子氏からご挨拶を頂いた。

この後、まずは、昼食の時間となり、この休憩中に参加者全員の自己紹介となった。

午後の1時からは本日の企画として、「災害時の要援護者救済について」の講演を、川越市防災危機管理課、副課長水村久幸にお願いし、震災時等の要援護者の救済と、その個人情報把握方法などについて、約30分にわたって講演を頂いた。

この講演会の終了後、町内育成会の泉小学校児童も母親達共々参加して和やかな雰囲気となった。

更にここで、川越市包括支援センターの職員にも登場願って、子供たちと高齢者が一緒になって「健康体操」を行い、やや緊張していた子供たちも、これでリラックスし、室内は一気に賑やかなムードとなりました。

最後は、最も気になるゲーム「ビンゴゲーム」をして、子供たちも高齢者も、一喜一憂して、打ち解けた明るい雰囲気の内に、こども達は敬老の思いやりを学び、高齢者はこども達の英気を頂いて、解散となりました。

☆野田町一丁目一人暮らしの高齢者の集いの状況



☆「災害時の要援護者救済」について講演



☆集まった老若男女



☆健康体操



☆健康ゲーム



以上秋庭記す

☆広域防災訓練を実施

平成 23 年 11 月 5 日(土)川越市立泉小学校校庭を借用し、第三支会広域防災訓練を実施した。参加町内は、第三支会内 10 自治会、1 マンションで、避難訓練には、各町から 40 人が朝 8 時 30 分には避難して来て、校庭は一気に賑やかになった。

開会式は、川合川越市長、大河内消防局長、小林中央消防署長、栗原自治会連合会長、尾崎市民部長他、市議、近隣学校長、各支会長等が列席して開催された。

まず、各来賓のご挨拶を戴いた後は、川越消防団第三分団の消防機器の操作、放水で訓練が開始された。

続いて、梯子車先端搭乗体験、傷患者担架搬送、AED 操作、起震車体験、初期消火、煙中避難等の各訓練が一斉に開始された。

一方、避難時炊き出し訓練には、各町から 3 人、30 人のお母さん達に集まって、朝 8 時から、混ぜご飯、とん汁等の仕込みが始まっていて、訓練が終盤を迎えた頃には、みなさんに体験試食をして戴き、早朝からの訓練もひと心地と言ったところとなった。

いよいよ、午前 11 時 40 分には、約 500 人の体験訓練も終了し、訓練の講評、そして閉会の言葉で 12 時少し前には、無事終了した。

☆会場入り口



☆避難の状況



☆会場の状況













以上秋庭記す

☆第三支部年末合同懇親会を開催

平成23年12月4日(日)、夕刻4時から、第三支会の定例会議を、会場、ラ・ボア・ラクテの会議室を借用して開催し、これを終了した後、引き続き5時半から、第三支会内の自治会正副会長、及び関連団体の会長等、40名が集まり、第三支会内諸団体合同忘年懇親会を開催しました。

この会には、市長、支会内市議、市民部長、及び支会内学校長等、来賓6名にもご来駕戴き、盛大に合同忘年懇親会を開催致す事が出来ました。

まず、秋庭支会長の事業報告、今後の計画等の挨拶で開始され、続いて川合市長、小林市議、清水市議から、それぞれご祝辞を戴き開始されました。

乾杯の後の懇談会では、各町の自治会長から、各町内参加役員の紹介が有り、支会内の各役員をそれぞれが知り合うことで、今後の業務が進めやすくして戴いた。

続く懇親会では、各人自慢ののどをご披露戴き2時間にわたるコミュニケーションが続きました。

また、御多忙な中をおいで戴いた来賓各位には、本会が終了する最後まで在席戴き、おかげさまで、盛大・成功裏に開催する事ができました事、本紙面を借用し厚く御礼を申し上げます。

参加の皆様



秋庭撮影

4.私たちの地域には、こんな特色があります

前号では、第三支会内の道路について紹介しましたので、今回は、支会内の鉄道について、その歴史と現況について触れてみます。

当支会内には、東武東上線と JR(旧国鉄川越線)の鉄道の二線が走っていて、駅としては、東上線の川越市駅と JR の西川越駅の二駅があります。



現在の川越市駅(東上線)



西川越駅(JR)

☆東武東上線

東上線が開通したのは古く、現在では寄居駅が終点となっているこの鉄道は、当初、群馬県の上武までの路線計画で建設が開始され、まず、大正3年5月1日に、池袋から六軒町停車場(現川越市駅)を経て、田面沢停車場間が、まず開通致しました。

田面沢停車場とは、現在の入間川に架かっている鉄橋の手前の堤防際に設置され、この鉄橋建設工事のための支線として作られた軽便鉄道で、大正5年10月27日に廃線となったとされています。この鉄橋のふもと、ほぼ同じ処に、終戦直後の僅かな期間、入間川で水泳をする客相手に夏限定、臨時駅が開設されたことがありました。



東上線開通時に「田面沢停車場」のあったところ
終戦直後には、水泳のために臨時駅もあった



三光町 36 番地・元税務署近辺の土が運ばれ、小ヶ谷鉄橋までの盛り土とされた

群馬県までの路線として計画されたこの計画は、その後、寄居駅で八高線に接続することで当初の計画は変更され寄居駅が終点とされ、大正 14 年 7 月 10 日に全線開通となりました。

六軒町停車場は、地籍上は現在の田町、(旧野田町)に設置されながら「六軒町停車場」との名称にされました。これは、六軒町住民が当駅設置に率先誘致に奔走、尽力し、格別の熱意を示されたためとされています。



開通当初の川越の駅

現在では、この東上線が第三支会の田町を東西に分断する形になっていて、交通量の激しい入間川街道が通勤時には、開かずの踏切となっています。このため、川越市駅を利用する乗降客、および一般の通行人のための歩道陸橋の建設が焦眉の急となっています。このため、第三支会から東武鉄道本社への請願、川越市への歩道橋建設要望書の提出等がなされていますが、一刻も早い実現が地元民から熱望されているところであります。



架橋が期待されている川越市駅北の踏切

☆JR(旧川越線)

一方、JR 鉄道につきましては、この東上線の開通の 25 年後、昭和 15 年 7 月 22 日に高麗川駅までが開通致しました。開通当時の大宮・川越間は、一日 10 回往復で所要時間は 20 分とされていました。

この当時の国鉄建設の経緯は、地元の経済発展のための要望に加え、満州事変、日中戦争、太平洋戦争などから、軍需関連の強い要望、国策として建設されたとされております。

この両線の開通のため、東上線の入間川鉄橋までの盛り土の土は、現在の山村学園の西・三光町の土が、そして、三光町の西の JR 国鉄陸橋の土は、田町の西のはずれの切通しの土が盛られたといわれています。



この切通しの土を使って

⇒



この陸橋が造られた



第三支会内にある西川越駅

5.第三支会ではこんな活動を行っています

第三支会では、次のような活動を行っています。

- ① 防犯推進活動
- ② 総合防災訓練活動
- ③ 社会福祉活動
- ④ 青少年育成推進活動
- ⑤ その他諸活動
- ⑥ 定例会における説明会など
 - イ. 現在進行中の北環状道路建設について、地元のお願い・提言等を県・市の道路建設担当者と意見交換しております。
 - ロ. 支会内に建設計画が進行中の大型物販店と、その進捗に合わせ、上記と同様、お願い・提言などの意見交換会を催しております。
- ⑦ 地域別活動

以上秋庭記す